

平成24年度 第2回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

- 日時 平成25年1月16日(水) 9:30~11:30
○会場 宇都宮市冒険活動センター 会議室
○出席者 馬上 剛 委員 (市PTA連合会)
副会長 橋本 和英 委員 (市小学校長会)
矢野 篤 委員 (市子ども会連合会)
森山 公子 委員 (市ボーイアウト・ガールスカウト連絡協議会)
相田美智子 委員 (市レクリエーション協会)
村上 敬吾 委員 (県キャンプ協会)
会長(議長) 伊東 明彦 委員 (宇都宮大学)
沼尾 順市 委員 (篠井地区ゆたかなまちづくり協議会)
天谷 文夫 委員 (県林業センター)
坂内 剛至 委員 (ネイチャープラネット代表)
入江 尚見 委員 (公募)
芥川 一男 委員 (公募)

(事務局) 山口 達雄 課長補佐
坂野 忠 所長
黒須 正宏 副所長
駒野 拓也 指導主事
稲澤 正明 指導主事

- 欠席者 富田 友子 委員 (市中学校長会)
○公開
○傍聴者の数 0人

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 報告事項

① 平成24年度事業報告について・・・資料 1

事務局 : (資料にそって説明)

会 長 : 報告について質問・意見等はあるか。

例年と違った部分があれば補足の説明をいただきたい。

事務局 : エンジョイサタデーの参加者が減少傾向にある。内容や開催方法の検討が必要かと思われるがアイデアがあれば伺いたい。

相田委員 : 年毎に活動内容を変えて実施しているのか。

事務局 : 少しずつ変えて計画をし、実施している。

相田委員 : 開催日によって参加人数のばらつきがあるが、どのような理由からなのか。

事務局：開催日ごとに活動内容が違っているのですが、その影響があるのではないかと思います。

芥川委員：どのようなものに人気があり、またそうでないものなどは把握できているのか。

事務局：設備や道具がないとできない活動は比較的人気が高く、そうでない登山などは低いと思う。

芥川委員：事務局側が、集客力のある活動を中心に計画をするのか、たとえ現在は人気がない活動であっても活動紹介等の目的から、あえて計画に含めていくのか、というこの主催事業をどう捉えていこうとしているのか、が大切ではないか。

馬上委員：これまで、最も多い年はどのくらいの参加者がいたのか。1000人を越えるような年もあったのか。

事務局：今手元に資料がないので正確な数字を申し上げられないが、1000人を越えたことはない。

相田委員：登山の内容を伺いたい。

事務局：榛名山に登る。標高は500M程度だが、急斜面もある。

相田委員：参加が予想されそうな中高年に向けて情報を発信したり、レベル別にコースを複数設定してみたりしてはどうか。

事務局：昨年度は2コースを設定し、気候の良い5月に計画した。

森山委員：エンジョイサタデー全体を通して参加者の年齢はどうか。

事務局：非常に幅広いが、就学前のお子さんを持つ若年層家族の参加が目立つ。

森山委員：小中学生は、学校で来ていることも影響しているのかもしれない。

会長：引き続き広報活動を地道に続けてみてはどうだろうか。

坂内委員：アニマルトラッキングのような専門的なアクティビティを試してみてもはどうだろうか。利用の少ないアクティビティは見直す検討も必要だろう。

橋本委員：同じ活動であってもネーミングを変えたり、内容を少しずつ変えたりして新鮮味を出してみてもどうだろうか。

矢野委員：広報はどのようにしているのか。

事務局：広報うつのみやへの掲載や、市内の小中学校及び地区センターから情報を発信してもらっている。

矢野委員：県外や市外の方たちはまだまだこの施設を知らない。今後も広報に力を入れてみてはいかがだろうか。

事務局：今後は小中学校以外に幼稚園や保育園にも広報してみたいと思っている。

村上委員：参加者の意見を聞きながら内容を検討してみても良いだろう。

(2) 協議事項

①平成25年度事業計画について・・・資料 2

事務局：(資料にそって説明)

会長：意見・質問等をお願いします。

坂内委員：冒険キャンプと宇大学生の授業については一緒に行うことが望ましいと思うので、日程の調整ができると良いと思う。

会長：定期試験の影響であるが、週末開催を含めて検討してみてもどうか。

芥川委員：同時に実施できない一番の原因は何なのか。

事務局：まず、こちら側の主催事業である冒険キャンプだが、日程をお盆過ぎに移動す

れば学生の授業と同時開催が可能である。しかし、内容の特性から考えて、夏休みも終わりに近づいている時期での開催は効果的なものなのかということ、また、一般利用者の多い週末を含めた開催とすると、一般利用の方たちに施設利用の制限が出てしまうことなどが問題点として考えられる。

村上委員：これまでの学生と冒険キャンプに参加した子供たちとの関わりについて伺いたい。

事務局：学生は、まず最初の2日間でアクティビティーの体験や講義を受ける。そして残りの3日間で冒険キャンプに合流し、教育実習のような形で子どもたちへの支援を体験する。このような流れであるが、日によっては1日を通して、子供と深くかかわりをもたせ、支援体験の場を設定している。

会長：学生と子ども達とのかかわりを重視するのであれば、週末を利用するほうがよいのではないか。

芥川委員：同感である。人材の育成を重要視するのであれば、多少の一般利用者への影響は仕方がないことだと思うし、理解も得られるのではないか。

橋本委員：事務局としては週末開催も考えているのか。

事務局：ここでいただいた意見を参考に決めたいと思っている。

坂内委員：CONE研修会の日程が1泊2日となっているが、講義内容を考えるとタイトに思える。今年度の様子を伺いたい。

事務局：タイトである。しかし、昨年度までの1泊2日+1日という日程であると参加者が集まりにくく、今年度は内容を検討しながらこのような日程で行った。参加した12名の方々は資格を取得し、主催事業にボランティアとしてご活躍いただいている。

会長：学校受け入れに関して何かあれば伺いたい。

橋本委員：年間計画を見ると、休館日にあたる月曜日に受け入れを行ったり、地域学校園での交流がしやすい形を組んでくれたりとありがたいと思っている。

会長：学校の重なりが多いときで、施設内に最大どのくらいの児童・生徒がいることがあったのか。

事務局：今年度は400人を超える日があった。

芥川委員：1日あたりの受け入れ人数を抑えることから休館日も開け、利用者にはありがたいことであるが、職員の仕事量を減らすことも工夫してみたらいかがだろうか。

橋本委員：CONE研修会の参加者の活用を積極的に考えてみてはどうか。

事務局：参考にさせていただきたい。

矢野委員：市子ども会の利用者からは、レストランの食事について残念な意見を聞いているがいかがだろうか。

事務局：利用者からのアンケートを参考にしながら毎年メニューの見直しを行っている。今後も利用者の意見や食育の観点から検討を継続していきたい。

矢野委員：メニューばかりでなく、限られた予算内での運営という関係もあるだろうが、子ども会を運営する方々にメニュー改善等の情報を伝えたいと思う。

相田委員：レストラン業者はどのように決めているのか。

事務局：コンペによって決めている。

相田委員：業者間の競争も必要であろう。

会長：他の観点からの意見・質問を伺いたい。

- 村上委員：必要であれば専門的な知識をもつ講師を招き、里山の食文化に触れることを目的として山野草を食したり、水を浄化して飲んだりする事業を取り入れてはどうか。
- 事務局：ご意見を参考にさせていただきたい。
- 会長：新規事業創出にあった小学生低学年を対象にしたキャンプに関して事務局の考えを伺いたい。
- 事務局：まだ、草案の段階だが実績のあるキャンプ協会と今後連携を図りながら進めていきたいと思う。
- 会長：その他の意見を伺いたい。
- 芥川委員：宮っこチャレンジとはどんなものか。
- 事務局：本市で進めている中学生の職場体験学習である。
- 芥川委員：中学生がここに通ってくるのか。
- 事務局：主にバスを利用して来る。体験を希望した大部分の生徒がここを選ぶ理由は、冒険活動教室が楽しかったからというものである。体験の内容は指導業務と管理業務であるが、管理業務に対しては、利用者として来た時はあまり目に触れないことや、業務内容が体力をたくさん使うことなどから印象深いものであるようだ。体験した生徒からは「このような大変なことをいつもしていることで利用者が楽しく安全に活動できることに気づいた」などと職員が嬉しくなるような感想を聞かせてくれることがある。
- 会長：今年度の教育効果測定に関してはどのような進み具合なのか。
- 事務局：ここまで順調に進められている。
- 橋本委員：利用者や利用を計画している方の中には、放射線量について心配している方もいると思う。市として広く市民に報告しているが、利用促進の観点からも安全性を積極的にアピールしても良いだろう。
- 事務局：2週間ごとに計測している結果を宇都宮市のHPや園内に掲示している。今後も継続していきたい。
- 芥川委員：利用する小中学生を通して周知することも可能であろう。積極的にアピールできると良い。
- 沼尾委員：私たちはこの地元で取れる農作物を使用してうどんを提供しているが、食材の中には国の基準値を超えてしまうものもあるようだ。口に入れるものについては、丁寧に検査をすることが必要であろう。
- 子どものもりオープンデーとはどのようなものか。
- 事務局：フェスティバルとは違い、日頃、学校に提供しているアクティビティーのみを1日を通して体験できるものにしたと考えている。そのため、当日の運営は外部団体のご協力をいただかず職員だけと考えている。たくさんの方々に来ていただけるよう周知していきたい。
- 入江委員：野外炊飯メニューにはどんなものがあるのか。
- 事務局：学校に提供しているものでは「手作り料理で世界旅行」というコンセプトからスペイン・インド・中国セットなど国の名前をつけた9つの種類がある。
- 入江委員：先日、竹でご飯を炊いて食べたが非常においしかった。ここでの日本メニューの内容は何か。
- 事務局：マスの塩焼き、豚汁、ご飯は飯ごうで炊いている。炊飯メニューではないが、学校には竹を使ってご飯を炊く活動も紹介している。

入江委員：食材に関しても，玄米や五穀米など新たな食材を取り入れてみてはどうか。

事務局：ぜひ参考にさせていただきたい。

会 長：他になければ閉会としたい。